

リレーエッセイ

今年度2回目のリレーエッセイ。職員自身もいつ自分に順番が回ってくるかが分からない、ドキドキのコーナー。職員の顔を思い出しながらかんご覧ください♪

「一生に一度は行ってみたい場所」 (飯澤からのリレーテーマ)

私が「一生に一度は行ってみたいところ」と聞かれ直ぐに思い浮かんだのが沖縄でした。沖縄の魅力は沢山あります。日本海では見られないエメラルドグリーンやコバルトブルーの海の色。また澄んだ空気と晴れた日が多く恵まれた気候も魅力の一つですが沖縄で最も行ってみたい所は「青の洞窟」ですね。映像でしか目にしたことがありませんが、きれいな青色に輝く海の色はまさに神秘的なので一度は訪れてみたいです。またフェリーに乗り宮古島の海岸に行き、何も考えずに空を眺めながら白い砂浜の上で大の字になって寝転がり、時間を忘れてゆっくり過ごしてみたいですね。他に鹿児島県の屋久島にも行き、「もののけ姫」の舞台となったと言われる「もののけ姫の森」や屋久島の名所中の名所の「縄文杉」を訪れてパワーを吸収して来たいです。行ってみたいと思うだけではなく、いつか実現したいと思います。

きら 山岸恵美

「最近感動したこと」(水瀬職員からのリレーテーマ)

社会人となって初めてのGW、短大時代の友達と山梨へ行ってきました。行ってみると思っていたよりも近いものでビックリでした。天気も良く、昼はBBQをし、釣りをしました。何年もやっていなかったのこつや勤を戻すまで時間がかかりましたが、全員でそれなりの数を釣ることが出来ました。夜はロッジで1泊。そして次の日は富士芝桜祭りへ。山梨といえば富士山ですが、一面の芝桜と富士山は「すげえ」の一言に尽きます。GW中が見頃なので気になる方は是非行かれてみてください！



ぴあん 小松辰也

山岸職員からのリレーテーマは「休日の過ごし方」、小松職員からのリレーテーマは「最近大笑いしたこと」、関職員からのリレーテーマは「思い出の味」です。次回もお楽しみに！

「若かりしあの頃の話」 (藤田職員からのリレーテーマ)

私が社会人になったのは、20年前。新設の介護施設でした。年齢も経歴も様々な7人が採用され、学卒者は幼馴染の友人と私の2人。ベテラン職員の厳しい指摘と、理想と現実の違いに迷い、悩む日々の中くじけずに頑張れたのは、友人と私の「自分がされたら嫌なケアは絶対しない！」という目標に賛同し、頭でっかちで暴走しがちな私たちを諫め、励ましてくれた年上の同期職員の存在でした。甘い見立てや行動を叱られ凹む度、「お前達のいい所は、ハイタリティーがある事だ。次も頑張れ。」と、笑って、前を向く元気をくれた事も今も時々思い出し、その度元気がわいてくる気がしています。もう20年もたったのね…。と自分の歳に驚きますが、今も気持ちは20歳です。(笑)



ららん 関広美

いとるの新しい仲間たち ～新入職員ご紹介～



4月21日から、ららんで勤務しています古川美智子と申します。全く初めての仕事で分からないことばかりですが、皆さんに助けられながら頑張りたいと思います。これから宜しくお願い致します。



こんにちは、栗田あずさと申します。勤務させていただき1か月が経ちました。今まで長年高齢分野の仕事をしてきましたが、障害分野の仕事は初めてなので不慣れなことも多くあるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。

いとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2017年6月

あっという間に春が過ぎ去り、梅雨の季節となりました。梅雨の花である“あじさい”も少しずつ綻んできたようです。気温の変化が激しい毎日が続いていますが、皆様体調いかがでしょうか？梅雨は気持ちが沈みやすい季節ですが、これからやってくる夏に向けて気分をあげていきましょうね(´o`)それでは6月の通信をお届けします！！



短期入所ぶあんが8床になりました！

インタビュー形式で
魅力をお伝えします♪

8床に増床改装し、新たにスタートを切った“短期入所事業所ぶあん”。今回はそんなぶあんの魅力を皆様にお伝えするべく、ぶあんのお2人からお話を伺いました♪

(以下インタビュー)

編集委員) 4床から8床に増床するという事で様々な思いがあったかと思いますが、いかがですか？

藤田職員) おかげさまでたくさんの方にご利用頂き、4床満床の日が続いておりました。希望人数が多く、受入れができないこともあり、ご利用されている方々にご迷惑をおかけしている状況でしたので、今回の増床によってたくさんの方々にご利用いただけるようになったことは嬉しいことであると思っています。

山本翔職員) やはり、利用していただける方が増えるということがなにより嬉しいですね。

編集委員) 構想する中で迷いもあったとのことですが…

藤田職員) 部屋の構造や、職員が泊まる部屋の工夫など、様々な点で迷いながら、設計士さんと相談させていただきました。快適に過ごせる空間が出来たのではないかと思います。



編集委員) こだわった点を教えてください。

藤田職員) これまで使用していた部屋の壁紙は、落ち着いた色のある白に統一し、すべて張り替えてもらいました。増設した部屋の入り口の壁の色にもこだわりました。安全上、特別な備品はあまり置けませんが、リゾートの雰囲気の色で表現しました。

インタビューの様子をお伝えしましたが、いかがでしたでしょうか？少しでも魅力がお伝えできたのであれば嬉しいです！8床化には様々な思いが詰まっています。これからぜひ多くの方にご利用いただきたいですね。

山本翔職員) お風呂をもう1つ増やしました。お風呂が2つになったことで、同じ時間に入浴をしたいという方がいらっしゃった場合も対応できるようになりました。



また、部屋に荷物かけを設置しました。帽子や防寒具をかけることができるので、便利です。

編集委員) これからの意気込みをお願いします！

山本翔職員) 8床に増床しましたが、ご利用者様により良い支援ができるよう、努力していきます。

藤田職員) たくさんの方にご利用いただきたいと思います。新しくはなりましたが、落ち着いてゆっくり過ごせる空間づくりに努めてまいります。

「おやすみなさい」「おはよう」と1日の終わりと1日の始まりを気持ちよく過ごしていただけるよう、職員一同頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





ビューティーデイでおしゃれをしよう♪

～ららんの活動より～

ららんの丸山です。ららんでは、月に1回ビューティーデイを行っています。ビューティーデイでは訪問理美容の方にお越しいただき、ヘアアレンジ・カラーワックス・マニキュア・ひげそり・眉毛のお手入れ・ボディシール等、少しだけですがいつもと違ったおしゃれ体験をすることが出来ます。今までは、休日開所の日に行ってきたビューティーデイですが、今年度より第一水曜日に移動させて頂く形になりました。

学校から帰ってくると「どんな髪型にしておこうか」、「何色のマニキュアを塗ろうか」など、楽しみにしている声がたくさん聴かれる一方で、美容師さんに自分で「お願いします」や「ありがとうございました」等の挨拶の練習にも繋がっています。これからも、このような子どもたちに様々な経験ができる機会を提供していきたいなと思っております。



余暇活動を楽しみました！

～きらの活動より～

4月中旬から清掃班が荒地の中庭を整備し庭の真ん中に手作り窯を作りました。釜戸の出来上がりは上々です。是非一度見に来てください。



その手作り窯で5月5日青空の下、BBQを楽しみました。棟内では野菜を調理する人、釜戸に火を起こす人、声援する人それぞれ役割があり一人ひとりが参加しました。みんなで協力して焼き上げた野菜、お肉、海鮮、焼きそばをお腹いっぱい食べ満足。そして食後のデザートとしてアイスも食べました(*^_^*)。天候にも恵まれとても良い一日でした。今後もいろいろな行事を提案し様々な体験をして頂きたいと思っております。因みに5月3日はカレー作り、4日はチャーハン作りをしました。みんなと一緒に作って食べると美味しく、幸せなひと時となりました。



おへやの中でも

～にこの活動より～



こんにちは、にこです。すっかり夕方も明るくなったため、外の活動が楽しくなってきました。一方で、中での制作活動も密かな人気を博しています。ねんどを使った素敵な創作活動

の他に、電車好きな子たちが集まってパソコンで電車のペーパークラフトを検索し印刷、作成など、それぞれ思い思いに活動を楽しまれています。

パソコンを使った活動…一見すると「ひとりで」「コミュニケーションを取らずに」行えそうな活動ですが、実はパソコンを借りる前に「報告をする」、他の友だちと「相談して」順番を決めるといったルールやスキルが求められています。挨拶や報告は苦手な方もいるかもしれませんが、好きな友達と一緒に楽しい活動を行うために自然と行えていることも多く、そんな経験を沢山増やして、出来たことを一緒に認め合っていくことで今以上に楽しい活動にチャレンジできるようになるのかなと感じています♪

<mote 雑貨のご紹介>

今回はさをり布を使ったペンギングッズをご紹介します！写真に映っているのは、「ポーチ」と「マグネット」です。とってもかわいいペンギンたちがたくさん。ポーチはちょっとした小物を入れるのにぴったりのサイズとなっております♪



また、マゼランペンギンクラフトフェスタが7月2日(日)にたこ公園にて開催される予定となっております。ペンギングッズを含むmote雑貨も販売させていただきます。ご都合よろしければぜひ足をお運びくださいね(^o^)

配属先決定のお知らせ

4月に入職した5名の事業所配属先が決定いたしましたので、お知らせいたします。

- 出崎 美貴 生活介護事業所きら
- 横田 さゆみ 生活介護事業所きら
- 小山 美季 放課後等デイサービス事業所ららん
- 小林 萌 放課後等デイサービス事業所にこ
- 小松 辰也 短期入所事業所ぷあん

～よろしくお願いたします～

当たり前ではない幸せ～命という奇跡～

障害福祉事業部とりらひん 教育推進室副室長 久保久美子

このコラムに何を書こうかなと考えていたある日、私のもとに一通の手紙が届きました。手紙の送り主を見ると懐かしい名前。それは、私がタイで出会った「たけちゃん」のママからでした。

「たけちゃん」との出会いは25歳の頃。タイでボランティア生活をしていたため収入がない私は、日本人会の「障害を持ったお子さんの親の会」と出会い、そこのお母さん達のお手伝いの一つとして家庭教師を行うことになりました。

当時たけちゃんは年長のかわいい男の子。私がお手伝いしていた家庭教師の内容は、ABA(応用行動分析)に基づき1対1で様々な行動を教えていくものだったのですが、たけちゃんも自閉症と診断されそのプログラムを実施していました。約1年後、私の帰国が決まり迎えたアルバイトの最終日。たけちゃんママは私に手紙をくれ、目の前で「くみちゃんがたけしを愛してくれるのは、私が許されている気持ちだ。ありがとう。」と涙を流してくれました。その涙の意味が分かったのは数日後のこと。親の会の代表から「じつはたけちゃんは足の障害もあるみたい。」という一言から。私には告げられていませんでしたが、たけちゃんは筋ジストロフィーだったのです。そう言われれば、確かにひょこひょこつま先で歩いていたたけちゃん。遺伝も要因とされる上、若くして亡くなる可能性が高い筋ジストロフィーのことを、ママが私を含む周りの人に対し話さなかったのは、きっと私には察することのできない胸中があったのでしょう。

帰国後もたけちゃんママとは必ず年賀状を送り合い、私は年々大人になるたけちゃんの写真を見るのが楽しみでした。もちろん今年も届いた年賀状には、幸せそうな家族写真とともに学校の運動会で車椅子に乗り一生懸命旗をふるたけちゃんの姿がありました。そんな年賀状から5ヵ月。届いた手紙を見て、言葉を失いました。手紙の書き出しは「突然のお知らせになってごめんね。4月24日たけしが亡くなりました」という言葉。そこで実はこの1年療養生活を送っていて、年賀状の写真も精一杯体調を整えて目標を叶えた成果だったと知りました。

私自身、たけちゃんとの出会いから10年以上経ち、人並みに結婚・出産を経験して母になりました。同年代の友人との話題もやはりこどもに関する話が多くなったわけですが、そこでいつも感じるのが「命の奇跡」です。若い頃は「結婚したら子供が欲しい」なんてすぐ当たり前のこととして未来を思い描いていましたが、実際ふたをあけると、実は子どもを授かることはとても奇跡的なことなのだと思うようになりました。私の友人には何人も不妊治療をしている人がいます。沢山の時間とお金を費やし、一生懸命体調に気遣い、それでも着床せずに涙を流す。世の中には「二人目不妊」なんて言葉もあります。私自身、不妊治療はしていませんが、流産を2回経験しました。みんな口々に、「まさか自分が」と言います。昔は、9人とか11人兄弟なんてことがよくあったと聞きますが、現在の平均出生率は2人を切る状態。経済面等から少子化になっているとも受け取れますが、

もう一方では「欲しくても授からない現実」があるのだと思えてなりません。そこには、食文化はもちろんのこと、女性が社会進出してきた中での晩婚化や女性の体へのストレス負荷等、様々な社会背景があるのではないのでしょうか。

そんな日本社会での子育てを経験し、事業部の放課後等デイサービスに来られるお子さんたちを見ていると、ふとタイでの生活を思い出したりもします。私は3年ほどタイ現地 NGO 団体に外国人ボランティアとして入り、現地国立施設にいる障害児へのケアを行っていました。ケアといっても、皆さんがイメージするものとは程遠いもの。というのも、そこでの環境はとてつとめさまじいものだったからです。

当時タイで障害を持って生まれたお子さんは、かなりの確率で捨てられるか、自宅の中で隠された生活を送るかのいずれかでした。そして、捨てられた子を国の収容施設が保護していたのですが、そこはあくまでも「保護」。例えば、体の3倍もの大きさに膨れた水頭症の子供たちが床にゴロゴロと40人以上寝ている部屋。頭が大きくて起き上がれない子供たちを5人ほど並べて仰向けにし、あんぐりと口を開けるところに順番にご飯をぼんぼん入れる職員の様子は、当時の自分には動物を相手にしているように見えました。またある部屋は、自傷行動があるために手足を縛られ柵に繋がれ布オムツ1枚の姿のまま傷だらけの少年ばかり。独語を言っていたのかもしれませんが、目の前にある状況から私にはそれが奇声にしか聞こえませんでした。そんな、ここでは書ききれない状態の何千人の収容施設でしたので、私が当たり前と思っていたことは全く当たり前ではありません。清潔な服を着ること、お腹いっぱい食べること、好きな時に水を飲んだりお風呂に入ったりすること。そして、愛されること。私が当時できたケアは、抱き上げて歌うことや、髪をとかすこと、限られた時間だけでも体を触ってあげること、服を着させてあげることでした。なぜ、同じ命なのに、こんなにも与えられるものが違うのかと毎日が葛藤だったことを覚えています。

一方では、欲しくても授からない日本の現実。もう一方では、沢山の奇跡のもとに生まれたはずなのに、愛されずすさまじい環境の中で一生を全うする命。同じ命ですが、生まれた場所や環境でこうも違うのかと考えてしまいます。

そんなことを思うと、目の前にいる我が息子に対し、毎日怒っている自分を振り返ります。そして、あんなふうになって欲しい、こんな様子を直したいと、様々なことを望んでいるなど、ふと気付くのです。きっと本当は、そこに命を授かることができ、そしてその命が健康であれば、それは当たり前のように当たり前ではない幸せなのでしょう。

そんな息子も現在4歳。私が出会った頃のたけちゃんと同じ年頃になりました。いろいろな感情の中、どんな言葉が出てくるかわかりませんが、ありのままの素直な自分の言葉で、たけちゃんママに手紙を書いてみようかな、そう思う今日このごろでした。